



東松山市長 森田光一氏

市長のメッセージ

「花とウォーキング」そして「ノーベル物理学賞受賞者(梶田隆章氏)」のまち東松山市は、都心から約50kmという恵まれた立地条件と交通体系のもと着実に発展を遂げてきました。

まちづくりでは、交流人口・定住人口の増加に向けて「観光振興」「産業振興」「子育て支援」の3つを中心に事業を展開するとともに、地域福祉の充実を図ることで超高齢社会において高齢者が生きがいを持って暮らすことのできる社会の構築を目指しています。

これからも全ての市民が生涯元気に活躍できる「9万市民総活躍のまち」の実現に向けて全力で取り組んでまいります。

はじめに

東松山市は都心から約50km、埼玉県のほぼ中央に位置する。歴史は古く、戦国時代には市(いち)が開かれ、以来、商業都市、比企地域の中心都市として発展してきた。

1954年に松山町、大岡村、唐子村、高坂村、野本村の1町4村が合併し、県下12番目の市となった。市名は松山部会町村合併連絡協議会で「松山市」に決まったが、自治省(当時)より四国の松山市と混同のおそれがあるとされ、改めて「東松山市」に決定された。

関越自動車道東松山ICが市内にあり、国道254号バイパスと国道407号バイパスが交差、東武東上線が南北に走るなど交通アクセスに優れている。

比企丘陵の美しい自然に囲まれ、花のまちとして知られている。市の北部にある東松山ぼたん園(表紙写真)は、4月下旬から5月上旬にかけて、ぼたんまつりが開催され、多くの人で賑わう。市の花であるぼたんの他、アジサイ、イロハモミジ、ロウバイなども植栽され、年間を通して楽しめる公園となっている。また、頂上からの展望も楽しい物見山のツツジ、湧き水が流れる松風公園の紅葉も美しく、黄色に色づく正法寺の大イチョウは圧巻である。

コアラやペンギン、カピバラで有名な「埼玉県こども動物自然公園」も多くの家族連れなどで賑わう。また、豚のカシラ肉に味噌だれをつけて食べる「やきとり」も有名である。

★ウォーキングのまちの「歩育」

市最大のイベントは、毎年11月に比企丘陵を舞台に繰り広げられる「ウォーキング」の祭典、日本スリーデーマーチ。毎年8万人を超えるウォーカーが、日本各地、世界各国から集まる。オランダのフォーデーズマーチに次ぎ、世界で2番目の規模を誇る大会となっている。コースは5kmから50kmまで6つの距離が用意され、自分の体力にあわせて歩くことができる。コースとなる比企丘陵は、武蔵野の貴重な自然が多く残り、歴史的な文化財も多く、適度なアップダウンと相まって、楽しく歩けるコースとなっている。

日本スリーデーマーチが有名なこともあって、東松山市はウォーキングのまちとして知られている。この特色を生かして、2017年度から、就学前の児童を対象に、歩くことを通じて、あたま・からだ・こころの成長を促す「歩育推進事業」が展開されている。歩くことによって、幼児期にたくさんの動きを経験し、



日本スリーデーマーチに参加する園児たち

東松山市概要

人口(2020年3月1日現在)	90,197人
世帯数(同上)	40,486世帯
平均年齢(同上)	46.9 歳
面積	65.35km ²
製造業事業所数(工業統計)	149所
製造品出荷額等(同上)	1,731.1億円
卸・小売業事業所数(商業統計)	715店
商品販売額(同上)	1,501.5億円
公共下水道普及率	46.4%
舗装率	56.9%

資料:「令和元年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 東武東上線 東松山駅、高坂駅
- 関越自動車道 東松山ICから市役所まで約3km

記憶しておくことが後の成長に大切とされている。市では、「てくてくわくわく歩育ブック」を作成し、子どもたちが、日々の生活の中で歩く楽しさを実感できる取組を行っている。3つの歩育コースを親子で楽しく歩いてスタンプを集める「歩育スタンプラリー」を実施しており、日本スリーデーマーチにも市内の幼稚園・保育園の園児の多くがチャレンジしている。

農とふれあうテーマパーク「東松山市農林公園」

昨年8月に「東松山市農林公園」がリニューアルオープンした。リニューアルに当たり、「農とふれあうテーマパーク」をコンセプトに農業体験、研修、農産加工品の開発を行う施設、子どもたちが遊べる遊具なども設置され、市の農業、観光の拠点となる公園として整備された。

園内の温室や畑ではイチゴや野菜を収穫することができ、農業を身近に感じることができる。園内のイチゴは地面から1mほどのところで栽培する高設栽培システムを導入しており、5月上旬まで行われている「イチゴ摘み取り体験」では、歩きながらゆったり摘み取ることができ、ベビーカーや車いすでも安心して楽しむことができる。

また、園内には貸出施設として調理実習室、多目的集会室なども整備され、新規に農業を始める人への研修や市内農産物を活用した加工品の製造を行い、市農業の振興に活用されている。

産業振興と心豊かに暮らせるまちを目指して

東松山市は県中央部、比企地域の中心都市であり、交通アクセスも良いことから、自動車関連を中心に産業の集積が進んだ。近年も市の産業拠点として、2014年に葛袋産業団地、2017年には藤曲産業団地が完成し、巨大な物流施設も含めて合わせて9社が操業している。企業誘致を積極的に推進するとともに、中小企業の支援を行うことにより、地域雇用の確保や経済の活性化を進めている。

産業振興とともに、全ての市民が生涯にわたって、心豊かに暮らせるまちを目指して、芸術、文化、スポーツの振興にも力を入れている。東京2020オリンピック・パラリンピックではキューバ共和国のホストタウンとなったことに加え、7月9日には聖火リレーが国道254号で行われる予定である。こうしたことを通じてまちに一層活気もたらされ、全ての市民が元気に活躍でき、安心して住み続けられるまちづくりが進められている。

(吉嶺暢嗣)



「東松山市農林公園」のイチゴ栽培